

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191700030		
法人名	医療法人誠晴會		
事業所名	グループホームふるさとの森		
所在地	佐賀県藤津郡太良町大字太良糸岐6851-3		
自己評価作成日	令和元年10月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和元年11月25日	外部評価確定日	令和1年12月19日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然豊かな多良山系に位置し麓には有明海を望む緑に囲まれたグループホームです。施設の畑では四季折々の作物が収穫できます。収穫した作物は食事に提供し、時には入居者様と協力して調理を行います。またカラオケや図書館への外出等、本人様の希望に合わせた楽しみ作りへの支援にも力を入れています。併設の老人保健施設より各専門職による医療面と機能維持へのサポートが受けられる体制も整えてあります。職員は利用者様の思いや感情を大切に、個性に合わせたサービスを提供できるよう、一緒に歩む心でその時々に応じて最適な支援方法を模索し、向上心を持って試行錯誤を重ねています。まだまだ発展途上ではありますが、家庭的な雰囲気の中にも礼節を重んじ、敬いの心を持っての関わりには自信を持っています。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>個性に合わせたサービスを提供したいと考え、日中の過ごし方は敢えて画一的ではなく利用者毎の思いに応じている。これは日頃から利用者へ寄り添い、理解していないと出来ないケアでもある。常識に囚われない自由な発想を促していることも特長のひとつである。また家族等から尋ねられたら自信を持ってきちんと説明が出来るケアをすべく、その根拠まで掘り下げて考えることを習慣づけている。職員のチームワークの良さと事業所の方針、更に長閑なロケーションも相俟って、利用者は思い思いに穏やかな日常を過ごしている。</p>
--

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内に掲示を行い各職員への周知を行っている。また月1回の職員会議の場や朝のミーティングで、実践できているか再確認の場を設けている。	母体法人の理念を踏まえつつ、事業所独自の基本理念とケア理念を掲げている。自分達が作り上げた理念であり、常に立ち戻る基本として意識している。「想像力と創造力による新しい介護」「新しい発見が出来る介護」と謳っている通り、日々の関わりの中では常識に囚われないケアを工夫している。画一的になるのを嫌い、「利用者のペースを大切に」各々に寄り添った支援が窺える。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の図書館利用や地元の行事への外出を支援し、地域との繋がりを保てるよう努めている。また、ボランティアの慰問を通して地域の方々と定期的な交流をできるようにしている。今後はグループホーム主催の行事を企画し地元の方々を招待できればと考えている。	自治会に加入しており、地域の細かい情報は運営推進会議でも得られている。自発的な草刈り奉仕なども含め、地域の一員として積極的に関わる中で、見守りや連絡を頼める関係も築いている。今後は回覧版を利用した情報発信や認知症カフェ、サロンの構想もある。周辺に民家は少ないものの、介護などの相談事があれば気軽に立ち寄ってもらうためにも交通手段の確保など具体的な計画も動き始めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族様へは、来所時に本人様の状況や支援方法について説明し、認知症への理解や家族様の不安軽減に努めている。しかし、近隣地域への積極的な地域貢献はまだできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では施設の活動内容を報告し、積極的に意見を頂いている。頂いた意見をサービス向上に活かせるよう職員会議や申し送りの場で職員に伝達している。	会議には地域役職の方や家族代表、また行政側は代理であっても出席者を出している。約一時間の予定だが延びることも度々である。事業所からの報告のみではなく双方向な意見交換が出来ていると自負している。最近では、敢えて一様に整えない日中の過ごし方を支持されたり、何にでも手を貸すのではなく、ごく自然に普通に暮らしてもらう事が大切なのではという貴重な意見もあった。またメンバー同士が顔見知りとなり相談し合う場面もみられ、自己評価ではこの会議を通して地域との繋がりも少しずつ増えていると記している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議に出席し、地域包括支援センターとの連携も行っている。地域の実情やグループホームに求められる役割についても情報収集し、地域に貢献できるよう努めている。	様々な機会を通じて行政側とは関わりを持とうとしている。他部門を訪ねた場合でも必ず担当部署へも顔を出し、相談事があれば直接出向くようにしている。実直に対応してもらえる関係は築いている。また2か月に一度、介護相談員も受け入れており、話し相手をしながら利用者の想いを汲み取り、伝えてくれている。今後も橋渡し役として期待している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1回老健施設と共同の身体拘束廃止委員会や院内での勉強会に参加し、身体拘束についての理解を深め、職員へのフィードバックも実施している。また、日常的に玄関の施錠は行わず、一緒に散歩する等で気分転換や閉塞感の解消に努めている。	入居契約時に指針の説明を行っている。職員は定期的に研修等を受け、身体拘束の内容とその弊害も理解している。玄関に施錠はなく、仮に外へ向かう利用者がいても傍らに付き添い、行動を抑えることはない。先に声を掛け安心してもらう工夫もある。利用者の所在を常に目配り、気配りで確認し、連携プレーによって自由で安全な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	老健施設での勉強会に参加し、職員間での意識統一を図っている。また、外部の勉強・研修会へも積極的に且つ計画的に参加し、虐待への理解を深められるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での勉強会に参加はしているが、実際に現実味に欠ける事もあり、制度や事業については職員によって理解度にバラつきがある。今後どのようにして学び活用していけるかが課題。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面に沿って丁寧に分かりやすい言葉にて説明を行っている。また、不安や疑問など話しやすい雰囲気にも工夫しながら理解力アップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に介護相談員の訪問により、利用者からの意見や要望の聞き取りがなされている。家族様には運営推進会議や面会などの際に話しやすい雰囲気を作り聞き取りに努め、運営に反映できるよう努めている。また、玄関口には意見箱を設置している。	約半数の家族は遠方に住むが、他は訪れることも多い。家族にも好評な毎月発行のホーム便りでは利用者毎に近況を記し写真も添えている。なかなか会えない家族とは電話やメール等を活用した連絡も行っている。来所の折には世間話も交えながら気軽に何でも話してもらえるよう努めている。要望などにはしっかりと耳を傾けつつ、事業所としての意見や理由があればきちんと説明をする姿勢でもある。また訪れる家族にも目を配り、体調面などに配慮し声を掛けていることは信頼関係にも繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員個人から運営に関しての意見・提案が出る事は少ないため、月1～2回に職員会議時に、運営に関して関心を持てるような議題の提案行う等工夫している。	職員会議は月2回、カンファレンス主体と業務に関わる事を分けて開いている。各40分程で休みの職員は自由参加としているが、内容によっては出席している。限られた時間をスムーズに進めるため、事前の内容周知や意見集約などの工夫がみられる。会議に限らず、各自が自由に発言しやすい環境でもある。管理者は日頃から明るく元気ををモットーに、職員への声掛けなどコミュニケーションを図っている。また働きやすい職場であるよう配慮も必要だが、定時での帰宅は課題となっている。法人は現場の声を大切にしており、上席にも届いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考査では職員の聞き取りを行い職員の意欲向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の目標や熟練度に合わせた研修や勉強会への参加ができるように勤務調整や研修費の補助などの支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会や地域ケア会議、事例検討会への参加促し、視野を広めることでサービスの質向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様への聴き取り、言葉にできない要望を重視し、不安や悩み、ニーズの把握を図る。家族様からの聞き取りも併せて必要な支援を見極め、適切なサービスを提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族様の苦労を労わると同時にこれからの生活に抱いている不安も聴き取る。サービスを通して、家族様が安心して前向きな気持ちを抱けるように図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様やご家族様への聴き取りと生活状況などから必要な支援を提案しながら、適切なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介助する」ではなく、同じ目線で一緒に生活していると思って頂けるような「お手伝い」を心掛けている。また、食材の下ごしらえや調理法など、入居者様の得意分野で職員がサポートを受ける環境も整えている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には月1回写真とお便りを送付し、遠方にお住まいのご家族にも、ホームの日常生活を身近に感じて頂くことで関係性が保てるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医や図書館利用など、これまでの人間関係が継続できるよう外出支援をしている。老健利用者であるご家族様や知人の方との面会も支援を行っている。	入居までの人間関係の把握には本人や家族、担当のケアマネージャー、また利用していたサービス事業所や病院関係者からも話を聞き情報を集めている。それらを基に具体的な支援として盆正月の帰宅(宿泊もあり)や墓参り、また年賀状を書いたり電話の取り次ぎも自由である。事業所で過ごしていても家族や友人との仲は途切れることがないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が仲介を行い入居者間のコミュニケーションがスムーズにできるよう努めている。また、お互いの持病や障害について相互理解できるよう、分かりやすい説明に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時候の挨拶に一言添える等、退所後も関係が継続していると伝え、相談しやすい環境と関係の維持に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の言葉に出来ない思いを、言葉の中や表情から汲み取れるよう努める。聞き取りが難しい方には家族様の話や生活歴などの情報から意向を汲み取っている。	利用者が想いを話してくれるタイミングがある。入浴の寛いだひとときや隣で話し相手をしている時、また歌を歌うという発声で言葉が続いたり、スキンシップで安心感が与えられた場合もそうである。日頃から利用者それぞれに寄り添うケアを実践しており、自己評価では「ほぼ全ての利用者の意向を掴んでいる」と記している。職員は聞き取った事を口頭やケア記録等で共有し、そこからケアプランへ反映させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様との雑談からも情報を得られるよう普段の会話にも工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人様のペースを優先し、支援の無理強いはない。また、過介助とならないよう本人様の生活機能を把握すると共に、職員間の情報の共有とケアの統一を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間でのカンファレンスを実施する他、朝礼での申し送り時にも気づきの共有を行っている。また、ご本人や面会時等にご家族からの意見も聴き取りながら介護計画に反映している。	ケアプランの設定期間は3か月毎、6か月毎、長期目標では一年を目途に見直しを行うケースもある。毎月のモニタリングにより、変化にも臨機応変な対応が可能となっている。本人の希望は日々のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時や電話での会話から汲み取っている。現状(残存能力)の維持を願う家族は多く、外へ出掛ける希望も寄せられ応えている。ケアプランは本人がより良く暮らすためのものと位置付け、過介助にも注意を払いながら利用者個々に沿った支援に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録の他、職員の気づきを申し送りし情報共有を行っている。集まった情報はカンファレンスを通して介護計画にも反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケア理念に掲げるチャレンジ精神と自由な発想の基、固定観念に捉われず試行錯誤しながら支援を行っている。自宅に戻れない方は近所までのドライブや、季節を感じられるドライブ・地域の図書館の利用等の支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントに出かけたり、地元グループの慰問を受け入れるなど交流を図っている。その他、川柳を趣味にされている入居者様が地元新聞や文化祭に作品を出品している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	其々のかかりつけ医での定期受診を支援している。定期受診では、日常の情報を提供し主治医からの指示を仰ぎ信頼関係を築く事で、時間外での応援も受けられている。	かかりつけ医は入居前からの馴染みの医師であったり、入居を機に協力医への変更を希望したりと様々である。それぞれのかかりつけ医の元へ同行しており、信頼関係も築いている。診療科目によっては病院を選ぶこともあるが、本人や家族の意向を大切にしている。また受診後の報告は当日中を原則としているが、家族毎に希望の対応も行っている。入居しても適切な医療が受けられ、家族にも安心してもらえるよう支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホームの看護職員とは情報交換できており、処置の要請や医療的判断を相談できている。また、必要時には老健看護師からの協力を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に訪問し、支援相談員との情報共有することで、早期退院に向けての体制作りに努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	サービス計画の更新や体調の変化があった際などに、ホームでできる事とその限界について理解して頂けるよう説明している。重度化された場合は病院や適切な施設等との連携ができる状況であり、家族様の不安軽減に努めている。しかし、重度化や終末期の在り方についての早い段階での話し合いが十分では無く、今後の課題。	入居契約時には指針の説明を行っている。現在、家族の希望を受け、初めての看取りケアを実施している。事業所として何が出来るか、何が必要か等々、家族へ寄り添うことはもちろん、職員のフォローも含め真摯に向き合っている。容態の変化や揺れ動く家族の気持ちにも配慮し、何度でも話し合いを重ね、安心して納得した最期を迎えてもらえるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、GH交流会でAED取扱いの研修に参加しているが、全職員が参加できているわけではない。自施設内での自発的な訓練はまだ実施していないため、実践力には不安がある。日頃からの意識付けの為に年にも年に3~4回は実施する必要があると考えている。		



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災に備えた訓練は消防署と共同で、年に2回定期的に行っている。地域との協力体制、また地震等その他の災害に関する訓練はできおらず、これからの課題である。	年2回の訓練には消防署も立ち会い、夜間は想定のみで昼間帯の実施である。利用者と一緒に避難を体験し、職員は消火器の使い方も承知している。隣接する同法人施設には事業所に手薄な非常食などを頼りとし、緊急時の応援では体制が組まれている。前回の外部評価では自ら通報手順等の不安を挙げ、目標達成すべく取り組み中でもある。今後の課題として、避難場所を家族へも伝えておく事や地元消防団との連携、また夜間の暗さの中で危険箇所等を再検証する案も検討されている。訓練での指摘や反省点は速やかに改善し、全員に周知している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の声かけひとつにしても、其々の個性があり、同じ声かけではいけないことの重要性を職員全員が周知している。丁寧な言葉遣いの中にも方言を交えることで人格の尊重になることも理解している。	入居して間もない時期は同性によるケアを心掛けている。接遇の研修もある。トイレや入浴の場面では最も配慮を要するが、ドアは閉める、見え難い立ち位置でのケア等々、基本的な事をきちんと行っている。慣れ合いになってしまう事を危惧した定期的な啓発が功を奏している。また個人情報の取り扱いに対する職員の意識も高い。ホーム便り等に掲載される写真や氏名の公表には承諾を得ており、業務上の会話であっても声の大きさには注意を払うよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の些細な会話から本人の考えや要望を聴き取れるよう、リラックスして話して頂けるような環境作りに努めている。また、自己決定が困難な場合には、さりげなくきっかけを提案できるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や排せつ等、生活の流れを業務に合わせてしまわないよう、その時の気分にあった生活をして頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の洋服を決定する事は困難でも、一緒に見てもらいながら支援している。女性ではアロママッサージやネイル、化粧なども気分に合わせて実施している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを伝え、どんな準備が必要か一緒に考える時間をとるよう配慮している。無理に勧めるのではなく、その日の気分に合わせながら、下ごしらえや味付け等ができるよう下準備を行う。片付けでは食器の拭き上げで、皆様の状態に合わせた声かけや準備等、できる限り参加され易い環境に配慮している。	献立は一週間分ずつ、法人の管理栄養士によって作られているが、利用者からのリクエストがあれば当日中の提供も可能である。好き嫌いやアレルギー有無の把握もされ、苦手な食材などには代替えも用意される。なかなか箸が進まない利用者には傍らで声を掛け、自分で口へ運んでもらうべく支援している。また食が細い場合は栄養補助食品の提供もある。検食者一名が同じものを食べ同席しているが、隣に寄り添う職員もあり和やかな食事風景である。誕生日は必ず当日に祝い、ケーキも用意される。家族が訪れることもある。ユニークなのは食材の配達があった際、その値段当てクイズが催され賑わいをみせることである。季節の野菜に触れ、自ずと金銭感覚を呼び起こすひとときである。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者の食事や水分の摂取量を把握・共有し、摂取量や本人様の希望に応じて食事量の調節や栄養補助食品の提供を行っている。特に、水分摂取量については定期的に情報交換を行い、ゼリー提供や食器の工夫で水分量の維持に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、セッティング行うが日中は実施されない方が多い。しかし、就寝前は全員実施して頂き、義歯も洗浄剤で夜間預っている。会話の中で口臭や汚れの発見に努め、特に舌苔の発見に努め、本人様納得されるよう丁寧に説明を行いながら保清に努めている。協力歯科医の往診も受けている。			

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導や声かけにより、失敗予防や自力のパット交換を促せるよう努めている。また、排泄パターンを職員間で共有し、適時のさりげない声かけにて交換が習慣化されるよう取り組む事で布下着への移行やパッド使用終了等の実績が出来ている	排泄に関して約半数は自立しているが、任せたままでなく、さりげなく見守っている。それぞれのパターンの把握と職員間の連携により入居後に改善した例も多い。これは利用者の自信となり、費用負担の軽減にも繋がっている。全てのトイレは車椅子でもゆとりのある広さで、適所に設置された手摺りは自立を促し助けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬剤に頼らない自然な排便を目指し腹部マッサージや定時の水分補給を実施している。また、便秘と運動の関係について説明しながら軽体操にも取り組んで頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人様の希望を聞き取り、入浴日や入浴頻度へ反映している。入浴を好まれない方には部分浴や更衣の勧め、声かけの工夫などを行い、本人様が清潔保持に関心を持ち自発的に入浴して頂けるよう働きかけている。保清にばかり気を向けてしまわない様、本人様の気持ち等を優先した支援を心掛けている。	入浴は週2～3回を目途に支援し、時間帯も出来るだけ希望に沿っている。柚子湯なども提供し季節を楽しんでもらっている。中には入浴を拒む利用者もあるが、職員のテクニックを活かし対応している。足浴や清拭も織り交ぜながら、入浴しない日でも下着肌着の交換は毎日行い、清潔保持にも努めている。浴槽は両側からの介助もしやすい設置であり、バスボードや手摺りの工夫で安全な入浴を支援している。また脱衣場に設えてある幅広ベンチは安定感があり、冬場のヒートショック対策も考慮されている。衣服の脱ぎ着は出来るだけ本人に任せ、見守りの支援である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本、自由に過ごして頂いているが、昼寝は声かけし、ベッドでゆっくり休んで頂いている。意思表示が困難な方には、表情や座位姿勢等から状況を汲み取り、安静時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が確実に把握、理解しているかはやや不安がある。しかし、その方にとって重要な薬については、管理者、看護師にて適時説明しており、変化の確認などもできている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや食器拭き、洗濯物を干す・たたむ等の家事等、自分から進んで関わって頂けるような働きかけが大事であり、その時の気分や能力に合わせるのが難しい。しかし、カラオケや園芸、定期的なドライブ等の楽しみ作りにも努めている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外を眺められる、落ち着かれない、等の様子が見られた時は外気浴にお誘いしている。また、カラオケ外出の他、不定期のドライブや地域行事への参加ができるよう外出支援している。しかし家族や地域の人からの協力を受けての外出は出来ておらず、資源を把握し、今後に生かしたい	図書館へ行くことを楽しみにしている利用者もいて、自ら外出の希望を話してくれる。テレビ等からの情報で話題を振れば興味を示す利用者もある。絶好のロケーションに建つ事業所では周辺への散歩も日常的にあり、空が近く感じられ五感の刺激にも繋がっている。また天候や体調をみて急に決まり出掛けることもある。隣接する同法人施設から車椅子対応車両をドライバー付きで借り受け、全員で出掛けることも度々である。行き先で心配なのはトイレ設備の有無で、その対応がポータブルトイレを乗せたトイレ車を同行させる策であった。出来ない理由を挙げるより、どうしたら出来るかアイデアを出し合うという日頃の姿勢が窺える。初めは外出を拒む利用者も、行った後には楽しかったとの感想が聞いている。全く外へ出ないという利用者はいない。(現在の看取りケア対象者以外で)		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様とご家族様の希望に応じて、本人管理か事務所預かりの対応を行っているが、現在は個人的な買い物などを希望される方はおられない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への電話を希望される場合は職員が取り次ぎを行っている。希望者には携帯電話を所持されており自由に家族や知人と連絡取られている。家族様へのお便りとして、年賀はがき作成を支援している。			

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は昼夜清掃を行っている。また、施設周囲の草花を飾り季節を感じられるよう工夫している。その他、天候や時間帯に合わせてカーテンや空調の調節、窓の開閉等を行い、利用者様が居心地良く過ごせるよう努めている。また、片付け時の食器が触れる音には十分配慮し、不快とされない様注意している。	利用者が日中の殆どを過ごすリビングは天井が高く開放的である。高台に建つため眺めも良く、採光と換気にも配慮が窺える。明るい室内は色調も合う木製ブラインドで調節され、床下換気設備がありながら時折サッシ戸も開け空気の淀みを無くしている。これは各居室も同様である。また利用者の動線上に通行を妨げる物はなく、安全に心地よく生活できるよう支援している。対面式キッチンからは調理の音や匂いがし、ご飯時を知らせてくれる。家庭と同じである。リビングの端に設えてある畳コーナーでは寛ぐことも出来る。手摺りなど手を触れる箇所の消毒はこまめに行い、感染症予防としている。浴室やトイレもきれいに掃除され嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳の間、こたつ等をいつでも自由に使用できる。他者様と会話する他、新聞や本を読んだり調べ物をする等、皆様思い思いに過ごされている。時には他者様の居室を訪問し、会話を楽しまれることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様やご家族様の希望を聞き取り、家具の配置に反映している。居室には慣れ親しんだ写真・本・植木等の私物を自由に置いて頂けるところをお伝えしているが、持ち込まれる方は少ない。	居室には、火気などの危険物以外に持ち込む品物への制限はない。使い慣れた物を自由にと伝えている。家族の写真や趣味で綴ったもの等々が身近に置かれ、本人が落ち着いて暮らせるよう支援している。衣替えの手配はもちろん、天気の良い日には寝具を干してみたり、家庭であれば当たり前である手間を惜しまない。いつの間にか住み着いた猫が自由に居室を回り寝ている様子は、利用者にとっても安らぎであり、自宅と同じようにと努める職員的一面が垣間見られた。また看取りケアも実施していることから、家族の希望があれば宿泊も可能となるよう前向きに検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では本人様に自由に行動して頂いており、本も自由に読める状態で見守りを行っている。歯磨き、トイレのパット入れ等、個人名を分かり易いよう印字し、配置なども工夫している。		

**V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)**  
**※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない